令和４年度　江戸川区立篠崎中学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	○よく学び、深くえる生徒○思いやりと規範意識のある生徒 ○すすんで体を鍛える生徒○社会に貢献する生徒	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校。 ○社会の一員としての責任を自覚した知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒 ○温かく、時には厳しく、生徒に範を示し、生徒の成長する姿に喜びを感じる教師。
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ 学校、保護者、地域が一体となり、生徒の健全育成に取り組み、落ち着いた学校環境が保てた。 ＜課題＞ 生徒の自己肯定感を高め、生徒の自主性を育成する。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業（取組）に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	一人一台端末を活用した個別最適な学びを実現する。 ・放課後補習を充実させる。	・全教員がiPadを用いた授業を実践する。年度末までにすべての授業の30%でiPadを活用した授業を実施する。 ・放課後補習を年間で35回以上実施する。また、区の政策の数学補習に全生徒の延べ1割を参加させる。	A	A	・全教員がiPadを用いた授業を実施している。iPadの活用は、教科の特性により差が生じている。全ての教科で何らかの工夫をして活用した。 ・放課後学習は25回実施した。区の政策の数学補習には全生徒の12%が参加している。	A	・学力向上は保護者・地域の願いである。しっかりと取り組んで欲しい・	・教員の研修を充実させ、学習用端末の活用を効果的に取り入れ、授業改善をしていく。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・改善	・体育の授業及び部活動で基礎体力を向上させる運動を実施する。 ・健やかな体をつくるため、栄養バランスのとれた給食をとらせる。	・都体力調査を実施し、昨年度の平均を上回るようにする。 ・給食の残菜率10%を超える品目を献立全体の10% 以内にする。	A	B	・体力調査の結果が前年度を上回ったのは、2年男、1年女、3年女で全体の半数にとどまった。 ・給食の残菜率が10%を超える品目は34%であった。今後「もったいない運動」等を強化していく。	B	・コロナ禍で体力が低下しているのではないかと心配している。 ・食育は大切なので、今後も取り組んで欲しい。	・保健体育の授業や部活動で、補助運動を取り入れるとともに、強化するべき項目を、教員間で共有する。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・朝読書の実施 ・読書活動の制作物の作成。	・朝読書を週3回、年間1050分以上の時間を確保する。 ・全生徒が読書活動の成果物を作成する。1年生:本の帯。2年生:ポップの作成。3年生:読書新聞。	A	A	・朝読書を週3回以上実施し、1800分確保した。落ち着いて読書に親しむ気持ちを育成できている。 ・各学年の成果物を学芸発表会で展示した。1年は「本の帯」、2年は「本のポップ」、3年は「読書新聞」で生徒がじっくりと考え、また創造性を身に付けることができた。	A	・活字離れが言われてから久しい。このような取組を継続的に行って欲しい。	・読書科の目標を明確にし、取り組んでいく。 ・朝の時程を見直し、効果的な朝読書の時間を築くように改善させる。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・eライブラリアドバンスの活用促進を図る。 ・しのたけルーム(エンカレッジルーム)での指導を共有し、活用に至らない生徒への支援に生かす。 ・特別支援学級と通常の学級での交流活動を行う。	・全校生徒の50%以上がeライブラリアドバンスを活用する。 ・しのたけルームの指導内容を週1回実施する特別支援委員会で確認し、全教職員に周知する。 ・運動会、学芸発表、合唱コンクール、学年行事で交流を図る。	A	B	・全校生徒の49%がeライブラリアドバンスに取り組んだ。 ・しのたけルームの指導内容を毎回特別支援委員会で確認し、その結果を全教職員に周知した。 ・運動会、修学旅行、生徒を笑顔にするプロジェクトで交流することができた。通常の学級と特別支援学級の教員が一部の授業を交換して実施した	B	・江戸川区は「ともにいきるまち」を目指しているので、共生社会を担う人材をぜひ育成して欲しい。	・課題を明確にし、全校で取り組んでいく。 ・新しい電子ドリルの導入に伴い、積極的に活用していく。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組の強化	・薬物乱用防止教室、SOSの出し方教室、セーフティ教室を実施する。	・薬物乱用防止教室1 /27、SOSの出し方教室を4/18、セーフティ教室を5 /6にそれぞれ実施する。	A	A	・SOSの出し方教室を4/ 18、セーフティ教室を5 /6、1/27SOSの出しかた教室をそれぞれ実施した。	A	・しっかりと健全育成に取り組んでいる。	・年間計画をしっかりと立て、毎月の目標を明確にする。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校評議員会での適時・適切な提案をする。 ・保護者アンケートを実施する。	・第1回評議員会で提案並びに中間評価、第2回評議員会で最終評価をいただく、第3回評議員会で総活をする。 ・保護者アンケートを2学期末に実施し、回収率を70%以上とする。	A	A	・第1回評議員会で提案並びに中間評価、第2回評議員会で最終評価を実施した。 ・保護者アンケートは2学期末に実施し回収率は83%であった	A	・コロナ禍にかかわらず評議員会を開催し、学校の姿勢がよくわかる。	・保護者アンケートの電子化に取り組み、回収率を向上させる。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・出退勤記録システム「打刻ちゃん」による在校時間の把握。 ・部活動ガイドラインを遵守した活動。	・在校時間が週45時間以上の学校職員を40%以内にする。 ・部活動計画及び実施報告書を毎月点検する。	A	B	・在校時間が週45時間以上の学校職員は全体の52%であった。 ・部活動計画及び実施報告書を毎月点検した。	B	・生徒の学習をかk保する意味でも、教員の健康には留意して欲しい。	・部活動ガイドラインにそった活動を徹底させる。